

学校施設跡地、どう活用される? その計画を問う



下江 一将 議員
(清流会・かさいを育む会)



問 統合の半年前には学校施設跡地の活用案を取りまとめると説明があった。間に合うのか。

答 事業者への聞き取り調査で大きな課題が見つかった場合は、市が管理を続け、継続的に活用方法を検討します。民間活用を基本に、地域の意向や学校の位置、地域の状況と将来予想などを踏まえ、地域との調和を保ちつつ、長期的な視点で地域づくりに役立つ活用を模索します。半年前の提示をめどに努力しますが、よいプランが立たない場合は、時間を要することもご理解ください。

問 市が活用イメージを提案されているが、特に取り組みたいことがあるのか。

答 若い世代が住み、多様な働き方がかなう場所の確保が最重要と考えます。グラウンドを利用した住宅地や校舎を使った事業所、特にスタートアップ向けのワークスペースを用意したいと考えています。また、住民の絆を深め、にぎわいのある場所をつくることも検討しています。

問 地域住民の意見もしっかりと反映してほしい。学校がなくなり地域性が薄れることが懸念される中、学校施設跡地は地域の核となる施設として活用も可能である。多角的に活用を検討し、よりよい案を作成できる体制を取ってほしいと考えるが、どうか。

答 市が主体的に民間需要や先行事例を調査し、複数の案

を提示します。区長会やPTAなど関係団体と意見交換し、よりよい案としていきます。また、地域が自主的に協議会を立ち上げることに、市として歓迎します。

問 学校施設跡地の活用案について、ふるさと創造会議が作成に関わることは可能か。

答 地域との意見交換を行う対象組織として、ふるさと創造会議は重要な組織と考えます。

問 管理者の探し方は。

答 プロポーザル方式で提案を募りますが、8校の跡地利用を進めるため、積極的にアプローチします。人口や市街地との距離など類似事例を参考にして、多くの業界、多くの情報を持つ金融機関、不動産事業者から情報収集を行います。

基本構想がない庁舎増築は理解できない



森元 清蔵 議員
(清流会・かさいを育む会)



問 庁舎増築の基本構想として文書化したものはあるのか。

答 協議の記録や、それまでの過程の図面等は担当課で資料として冊子にまとめています。

問 しっかりと文書化されていない。現庁舎はどこがどう狭いのか、現状でやりくりできないのか、それら検討事項を文書化するのが基本構想ではないのか。

答 現庁舎において、今、一括して事務を行うスペースを確保することができないことから、庁舎を増設しなければならないという結論に至りました。

問 こども家庭センターを福祉会館に設置できないかどうか、どれだけ検討されたのか。

答 福祉会館の会議室は稼働率が約70%となっており、その一室を執務室に利用することは難しく、検討の結果、福祉会館での運営は困難と判断しました。

問 市民や議会の理解を得るには判断材料を示す必要がある。その判断材料として示すものが基本構想ではないのか。

答 福祉部を中心として、機能の集約の必要性やスペース等の検討は十分行っています。12月議会、2月の閉会中の委員会、3月議会において相応の判断材料をお示ししたと思っています。

問 まず建てることを市長が判断し、そこからスタートしたとしか聞き取れない。まず場所

ありき、増築ありきで進めたため、療育室を福祉会館に置くという変更が出てくるのではないかと。

答 (副市長) 附属庁舎建設の目的は、現庁舎の非常に手狭な職場環境の改善と、市民の方の利便性を向上させることです。その増築庁舎の中に、こどもサポートセンターや防災センター機能を入れたり、不足している会議室をつくって設計したところです。これらが基本構想的な内容です。

問 増築によって現庁舎にどれだけの面積が確保され、職場配置が改善されて業務が効率化するという絵は描けているのか。

答 (副市長) どの部署をどの場所へ移動させるか、または新しい庁舎にどの部署を入れるかについては、今検討に入っています。かなり業務改善ができると確信しています。